

# Glocal Tenri



4

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.22 No.4 April 2021

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

## CONTENTS

- ・ 巻頭言  
なぜ環境の整備なのか  
／永尾 教昭..... 1
- ・ 日本語教育と海外伝道 (33)  
国際化の中での日本語教育 ④  
／大内 泰夫..... 2
- ・ 遺跡からのメッセージ (68)  
大和の文化遺産を学ぶ ⑥—附属天理参考館の共同  
展「天理 山の辺の古墳」  
／桑原 久男..... 3
- ・ ライシテと天理教のフランス布教 (24)  
20 世紀のライシテ②  
／藤原 理人..... 4
- ・ 伝道と翻訳—受容と変容の“はざま”で— (28)  
仏典翻訳の歴史とその変遷 ⑩  
／成田 道広..... 5
- ・ 音のちから—中国古代の人と音楽 (新連載)  
最古の楽官は、はたして靈獣だったのか  
／中 純子..... 6
- ・ コロンビアへの扉—ラテンアメリカの価値観  
と教えの伝播— (15)  
5. コロンビアの体質 6  
／清水 直太郎..... 7
- ・ ヴァチカン便り (49)  
法王の叱責  
／山口 英雄..... 8
- ・ 思案・試案・私案  
「碑」の字表記問題再考 (12)  
／八木 三郎..... 9
- ・ 2020 年度公開教学講座要旨：『逸話篇』に学ぶ  
(6)  
第5講：106「蔭膳」  
／八木 三郎..... 10
- ・ おやさと研究所ニュース..... 11  
新連載執筆のねらいと執筆者紹介／2020  
年度宗教研究会／第338 回研究報告会  
2020 年度「教学と現代」のご案内

## 巻頭言

### なぜ環境の整備なのか

おやさと研究所長 永尾教昭 *Noriaki Nagao*

前号で、天理教の海外布教の場合、特に教会本部の出先機関とも言うべき拠点(伝道庁、出張所など)の環境整備が重要だと述べた。それは、海外の場合、教義の研鑽、信者の修練といった布教に不可欠なことを実施できるのが事実上、拠点以外にはないからである。

アメリカやブラジルには、多くの天理教の「教会」がある。ただ、天理教では「教会」とは、単に「宗教的会合のための建物」(広辞苑)を表す普通名詞ではない。「教会」とは、原則「所属するようぼく16人以上(うち教人5人以上)及び信者若干名を有する」(天理教伝道庁・海外教会規程第3条)礼拝施設を言う(国内の「分教会」も同様)。「ようぼく」とは、別席を9回受講し、さづけの理を頂いた者で、「教人」とは教人資格講習会を修了し登録された者を指す。

つまり天理教の場合、「教会」とは礼拝施設の等級をも表す。布教師が、未信者を信仰に導き、それが上記のような人数に達し、本部に承認されたら「布教師」が言わばグレードアップして「教会」となる。逆に施設の規模がたとえ大きくても、所属信者数が上記に満たない場合、教会ではない。教会となると最低つとめが勤修できる広さは必要だが、個人宅でも構わない。事実、特に海外の場合、筆者はすべて知っているわけではないが、多くは一般民家である(その国の法律で、一般民家で信者の会合が許されるかどうかは別問題)。

したがって、教会と言ってもそこにいるのは会長家族だけである。会長は他に生業をもっている場合もある。さらに会長家族のプライベートな家でもあるから、私的な生活の場であり、およそ公的な空間とは言えない。よって現実そこで信者の育成などは非常に難しい。

このように信者が教義研鑽する場を設けたり、いわゆる初心者が信仰を深めるようなプログラムを企画、運営できるのは、現実に拠点しかないのである。多くの教会長などは、導いた信者を拠点が運営する修養会や研修会に連れていき、そこで教理を深めるように促す。それゆえ、拠点のあり方、言い換えれば拠点の環境が非常に重要になってくると思われる。

日本国内でも、個人宅的な教会は実はたくさんある。しかし、大教会と呼ばれる教会(大教会も、面積的に大きな教会という意味ではなく、一つの等級を表す)、あるいは分教会でも、常駐ではなくても行事ごとにスタッフが集まるのが容易で施設規模もそれなりにあるところは多く、宿泊施設があるところも珍しくない。よって、そこで信者の研鑽などができる。また教会本部自体が、さまざまな信者育成プログラムを用意しており、そこでも可能だ。しかし、上に述べたように、日本以外の多くの国でそれだけの規模を持つ天理教の教会は決して多くない。さらに、高い旅費をかけて日本にある教会本部まで行くことも必ずしも容易ではない。

拠点が日系人コロニーのようになっていたり、雰囲気まさに日本そのものであれば、特別に日本趣味という人なら別だが、多くの非日本人、非日系人には入りやすく、結局、未信者が信仰の入口近くまで来ても、そこから奥に入っていくべきがない。

「あの天理教の信者はいい人だから」と、言わば人間関係から信仰に導かれることは悪いことではない。しかし、そうして導かれた人が確固たる信仰を胸に修めるためには、当然教理の理解を深めることが重要になるし、したがってそのために海外拠点が体制を整え、環境を整備することは大きな課題だろう。